●〈症例〉

直腸癌を合併した Amyloidosis の 1 例

吉田 一成¹⁾ 梁 英樹 山下由紀 廣瀬太郎
足立ヒトミ²⁾ 吉田 泉³⁾

¹⁾至誠会第二病院／外科, ²⁾同／消化器内科, ³⁾ヨシダ消化器内科
クリニック

〔Key Words〕 アミロイドーシス, 大腸癌

和文要旨

原発性アミロイドーシスは速やかに悪化の経過をとり死に至る疾患であり, これに癌を合併した報告は散見するのみである。我々は直腸癌を合併したアミロイドーシスの 1 例を経験した。切除術にて癌は治癒したが, 術後 3 年 4 カ月でアミロイドーシスからネフローゼや栄養障害を生じて死亡した。経過中, 腸管切除術後の吻合部や縫合部の完全治癒痕は得られず, アミロイドーシスの腸管の吻合や縫合は治癒が難しいと考えて治療にあたるべきである。

はじめに

原発性全身型アミロイドーシスは予後が極めて不良な疾患であり, これに悪性疾患を合併した報告は散見するのみである^{1,2)}。今回, 我々は直腸癌を合併し腸管切除を行った症例を経験, 知見を得たので報告する。

症 例

患者: 71 歳, 男性。

主訴: 下血。

既往歴・家族歴: 特記することなし。

現病歴: 数日来的下血にて来院し, 外来の直腸指診にて腫瘍を触知し, 直腸癌の疑いとして精査入院となった。

入院時血液生化学: 特記する異常値なし。

大腸鏡, 注腸造影 (Fig. 1): 直腸 Rb の Type 2 直腸癌および Rs の副病変と診断。

組織生検 (Fig. 1): 腺癌を確診した。CT・超音波にて転移は認めなかった。

経過: 開腹手術を行い, 明らかにリンパ節転移なく低位前方切除術を行なった。病理所見では中分化腺癌, Type 2 (4 × 4.5 cm), a1, ly0, v1, n(-), stage II であり, 副病変は高度異型であった。しかし術後に吻合

Fig. 1 Colonoscope and Ba-enema : Rectal carcinoma with merger lesion. Biopsy specimens showed adenocarcinoma.

Stomach	Duodenum
Biopsy specimen	Congo red stain

Fig. 2 Upper GI Endoscopy.

部の縫合不全から腹膜炎を併発し, 術後 7 日目に人工肛門造設と腹腔内ドレナージを行った。なかなか吻合部の治癒傾向が得られずにいた所, 病理所見にて原発性アミロイドーシスを診断された。上部消化管内視鏡も行ったところ, アミロイドの粘膜下の沈着を認め (Fig. 2), 全消化管型アミロイドーシスを診断した。人工肛門造設後は良好に経過して退院した。術後 5 カ月にて本人の強い希望で人工肛門閉鎖を行った。ステロイドや 5-アミノサリチル酸を経口投与などにより治療を行ったが, 直腸吻合部や人工肛門閉鎖部の潰瘍の再燃を繰り返し出血が頻発した。その後, 皮下や腹腔内にもアミロイドの沈着を認め, 全身型アミロイドーシスとなる。術後 2 年ほどからネフローゼ症候群を併発し, 腹水から腹腔内出血も呈するようになり全身状態悪化した。経口摂取不能となり在宅 IVH などにて対

Fig. 3 Post anterior resection anastomosis : Left is 1 year 1 month. Right is 2 year 10 month.

症的に加療するも、術後3年4カ月にて死亡した。死亡時に癌の再発の所見はなかった。

前方切除吻合部・人工肛門閉鎖部の経過：吻合部(**Fig. 3**)は1年1カ月後も潰瘍を生じて出血した。2年10カ月後になっても、瘻孔を形成して完全治癒は得られなかった。人工肛門閉鎖部(**Fig. 4**)も8カ月後(前方切除の5カ月後に閉鎖している。)でも壊死物質を有する潰瘍を呈している。1年9カ月後でも治癒痕は得られなかった。

考 察

原発性アミロイドーシスは非可逆的に進行し栄養障害や心筋障害、腎障害などを呈する予後不良な疾患であり、これに悪性疾患を合併した報告は散見するのみで貴重な症例であると考えられた。さらにアミロイドーシスの病変内での吻合などの操作後治癒機転も極めて不良なことが示唆されているが³⁾、本症例でも腸管吻合部と人工肛門閉鎖縫合部の治癒は著しく不良で経過中に完全治癒は観察できなかった。

全身性アミロイドーシスを合併し、腸管の切除が必

Fig. 4 Post stoma : Left is 8 month. Right is 1 year 9 month.

要な場合には、治癒機転が不良なことを考慮して、極力吻合を避けることが望ましいと考えられた。

文 献

- 1) 岡田禎人, 鈴木勝一, 中山 隆, 他: 全身性アミロイドーシスに上行結腸癌が合併し上行結腸の穿孔をきたした1例. 日消外会誌, 36: 941, 2003.
- 2) Iwahashi N, Tame E, Nagasak T, et al: Massive Hemorrhage and Pseudo-Obstruction of the Small Intestine Caused by Primary AL Amyloidosis Associated with Gastric Cancer: Report of a Case. Surgery Today 34: 871—874, 2004.
- 3) 金子由紀, 中澤 哲, 小川真平, 他: S状結腸腔瘻を併発した透析アミロイドーシスの1例. 手術, 58: 131—134, 2004.

A case of Amyloidosis with rectal carcinoma

Kazunari Yoshida¹⁾ Hideki Ryo
Yuki Yamashita Taro Hirose
Hitomi Adachi²⁾ Izumi Yoshida³⁾

¹⁾Department of Surgery, ²⁾Department of Gastroenterology, Shiseikai 2nd Hospital, ³⁾Yoshida Gastro-Intestinal Clinic.